

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: エコチル調査への期待と責任(特集(エコチル調査に求めるもの—環境リスクから子どもを守るために—)の一部)

和文タイトル: エコチル調査への期待と責任(特集(エコチル調査に求めるもの—環境リスクから子どもを守るために—)の一部)

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 化学物質と環境

年: 2014 月: 5 巻: 125 頁: 43289

筆頭著者名: 橋本 浩一

所属UC名: 福島UC

目的:

エコチル調査開始後まもなく、東日本大震災、東京電力第一原子力発電所事故が発生した。県内で放射線の健康影響について不安が高まるなかでリクルートが進められた。調査を進めるにあたって直面した課題と取り組みについて紹介する。

方法:

福島県内52か所の産婦人科協力医療機関で、本調査の参加登録をし、また半年ごとの質問票調査を実施した。調査を進めるにあたり、1)放射線への不安、2)単なる調査では受け入れられない、3)協力体制の確立が課題となった。これらに対して、参加者へは専門家による放射線に関する講演会、エコチルコンサート、各地域での茶話会、絵本の読み聞かせラジオ番組の提供、ニュースレターの発行、育児相談などを実施した。

結果:

リクルート終了時点で、全国で10万人の登録という目標が達成された。福島県内では、母親(妊婦)12,816人、父親7,575人が登録された。また、2014年3月時点で、子どもは8,645人が出生後登録された。質問票の返送率は90%を超えている。

考察:(研究の限界を含める)

質問票の高い返送率は本調査への高い関心、期待によると考えられる。参加者のご理解および関係者のご協力に支えられ、福島県内のエコチル調査は、困難な課題に対して取り組みながら、リクルートおよび調査の実施を進めている。

結論:

エコチル調査福島ユニットセンターは、未来に向かって歩み始めた福島県の復興とともに歩み、微力ながら「福島で産み育てる」ことをお手伝いすることを最大の課題とし、参加者、関係者の皆様と一緒に成長し続けたいと考えている。